

民主島根

2022年
7.31
第1409号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

貫いた100年 胸張って “「戦争する国」ノー”

地方議員が党創立記念日に宣伝



宣伝する(右から)尾村、橋、舟木の各氏ら(松江市)

日本共産党創立100周年を迎えた15日、中国5県の党組織は各地でいっせいの宣伝に取り組みました。
松江市では、尾村利成県議、舟木健治、橋ふみ両市議らが商店街で宣伝しました。
岸田首相が「できる限り早く(改憲)発議に至る取り組みを進めていく(11日)と強い意欲を示したことにふれ、「9条改憲を許すな」の一点で国民的な大運動を広げ、改憲を阻止するために力を合わせよう」と呼びかけました。
尾村県議は、首相が固執する9条改憲が実現すれば、海外での武力行使への制約がすべて取り払われ、自衛隊が米軍とともに戦闘に参加することが可能になると指摘。「日



訪問する(右から)西村、徳永、西尾氏と柳楽総務部次長(県庁)

本を再び『戦争する国』にすることは絶対に許されない。反戦平和、主権在民をまっすぐつらぬいてきた党として、9条を守り生かす政治へ、暮ら

核の非人道性伝え続けたい

国民平和大行進 県庁・県議会を訪問

20日に鳥取県から島根県入りした原水爆禁止国民平和大行進(富山-広島コース)は22日、原水爆禁止島根県協議会の西尾幸子代表理事(90)、同事務局の西村容子氏(80)、徳永和洋事務局長の3氏が県庁と県議会を訪れました。
日本共産党の尾村利成、大國陽介の両県議が同席しました。
県立広島第一高等女学校1年生(13歳)だった1945年8月6日に

病床の確保もつと 党県議団が県へ緊急要望

島根県内で20日に新型コロナウイルス新規感染者数が1608人となり、過去最多を更新する中、日本共産党県議団は同日、県に県民の命と生活を守る緊急要望を行いました。
尾村利成、大國陽介の両県議は、陽性者の同居家族(濃厚接触者)から「保健所から連絡がなく、自分がどう行動すればいいのか不安」との声を紹介し、フォロー体制の強化などを要望。▽確保病床の上積みと通常診療が継続できる医療供給体制の確保▽ワクチンの安全・迅速な接種▽受診抑制と感染拡大防止の観点から資格証交付世帯に直ちに国保保険証の交付▽各保健所に必要な人員

広島原爆の日、松江から 願いと祈りの集会

8月6日(土)10:00~10:15
島根県民会館前の歩道
☆スタンディングとリレートーク

原水爆禁止 2022年世界大会 広島デー集会

8月6日(土)10:30~13:00
島根県民会館308会議室
リモート会場(参加費1,000円)
主催:原水爆禁止島根県協議会

鼓動

最近、人が生きることの意味を考えさせられた。映画「男はつらいよ」で、満男が「おじさん、人は何のために生きるのかなあ」と尋ねると、寅さんは「むずかしいことを聞くなあ。(しばらくして)ほら、人は生きていくと何度か『ああ、生きていてよかった』と思うことがあるだろう。だから生きるんだよ」と答えた▼それを実感できたのは、拙著を送付した学生時代の友人から「一人で読むのは惜しい。この読後感を他の人とも共有したい。ぜひ出版を」とのお誉めの電話を受けた時だ。そして「定年後、ブラブラしていたが、おまえの生き様に刺激を受けたよ。俺も大学卒業以来、封印していたギターを再開することにした」と▼105歳で大往生した医師・日野原重明さんは晩年に「人生はゴールの時まで向上できるし、希望がある:鳥は飛び方を換えられないが、人間は生き方を変えられる。いくつになっても新しいことに挑戦できるんです」と、ある新聞に書いていた▼昨年米寿を迎えた作家の森村誠一氏は「余生を文字通り『余った生』で終わらせてしまおうのか、『誉(ほまれ)ある生』としての養生にするのか」が問われていると、著書「老いる意味」に書いている。そして、百歳まで作家として書き続けることを目標に▼森村氏は「人間はいつになっても新しいことを始められる。常に未来を見つめられたいれば、若者に負けない志を持つことができる:自分で『終わり』を決めつけてしまわない限り、人は楽しく生きていく:ネバーギブアップ」と。見習って、古希にして始めたライフワークに挑戦し続けたい。(吉)